

作成日	2025 年 6 月 23 日
研究科名	生活福祉専攻

自己評価：S・**A**・B・C

評価項目① 過年度からの改善・向上の取り組み

- (ア) 昨年度の自己点検・評価において各組織で記述した課題・改善方策や、内部質保証推進会議からの提言を踏まえ、現時点における取り組み状況・成果について記載してください。
- (イ) 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な指導・支援・フィードバック等を行い、それによって学生が意欲的に学習できているか。学生への指導や支援、成績評価やフィードバック等の取組状況を具体的に説明してください。また、期待した効果が得られているか、各種アンケート結果等をもとに検証のうえ、記載してください。

参照資料

- ・令和 6 年度自己点検評価シート
- ・令和 6 年度内部質保証推進会議からの提言
- ・第二期中期計画および R7 学長方針
- ・大学院生アンケート
- ・卒業時アンケート（大学院）
- ・資格取得や進路就職状況
- ・各種会議の議事録等

【現状分析】

(ア) 昨年度、現在の専任教員の構成からは、学校保健やスクールソーシャルワーカーなどの分野に方向転換し、保健教育の教員を加えて専修免許の取得できる専攻へ変更することにより、志望者が増加することが期待できること、新しい専任教員を増やすことなどを課題として挙げた。専任の教授を令和 7 年 2 月に授業担当教員に、令和 7 年 5 月に指導教員とし、保健教育分野の指導ができる体制とした。専修免許に関しては、令和 9 年の大学院改革時期に併せて、発達教育学研究科の中に養護教育学分野を新設し、専修免許が取得できるよう変更予定である。

(イ) 令和 5 年度、6 年度は学生が不在の状態であり、実際の学生の指導やフィードバックについて取り組みはできなかった。令和 5 年度には FD 研修でシラバスの書き方の工夫により、教員はフィードバックの効果的な行い方を学んだ。令和 6 年度の FD 研修では、文献検索サイトの効果的な利用方法と学生に勧められる無料の文献管理ソフトの利用について教員内で共有を行った。令和 7 年度の FD 研修では大学院教育における AI の利用について研修を行う予定である。

【成果】

令和 6 年度は学生が不在であったが、令和 7 年度は 2 名の学生がいるため、これまでの研修成果を利用して効果を確認していきたい。

【課題】

入学者の 2 名とも現職の養護教諭であり、毎日勤務があり多忙なため大学に出てくるには週末や休日に限られることから、図書館の利用や指導教員以外からの指導を受ける機会が限定される。

【改善・発展方策】

FD 研修などの機会に、学生の意見を聞きながら、学習環境の整備や時間的制約の解決につながる方策を学校や教育委員会とともに検討していきたい。